



学校だより 10月号

文京区立第一中学校 令和4年10月21日(金)



ありのまま

校長 田島 佳子

広辞苑によると「植物」とは、根が生えて固定的な生活をしている生物。一方「動物」とは、運動と感覚の機能を持つ生物、と記されている。

私は日本の四季がとても素晴らしいと思っています。近年は異常気象が続き、春と秋があっという間に過ぎ去ってしまいます。それでも道端に目を向けると様々な草花が咲いています。花屋の花を見ると近頃は、この季節にこの花は本来咲いていないのに、と思うことがよくあります。変わった形や馴染みのない外国の花やいかにも人工的な色の花がよく店頭で置かれています。本来、植物は季節にあった花を咲かせます。ありのままに十分なのに、と思うことがよくあります。

少し前に、吹きガラスの体験をして風鈴を作りました。風鈴は、風の動きを音に変えてくれるものです。何とも言えない風情があります。四季のある日本で草花や風情を愉しむ暮らしを大切にしていきたいし、次の世代にも残したいものです。

私は、植物が好きで、子供のころからフラワーパーク的などころによく連れて行ってもらいました。小学生のころから、盆栽市に行くのが楽しみでした。そして自然に花を生けるようになりました。様々な流派がありますが、華道には基本的な決まりがいくつかあります。枝、葉、花、花器、高さや奥行きなど。そして大事なものは、季節です。外にあるありのままの風景を切り取って、そこに風がふっと通るような空間を造り、切ってしまった植物に再び命を吹き込みます。なぜ植物が好きになったかというところの子供のころに誰だったかは、覚えていないのですが、「動物と植物ってどっちが強いと思う？」と聞かれ「動物でしょ」と答えました。その時に「動物は動けるから、えさを探しに行けるし、危険を感じたら逃げることもできる。植物は、どこにも行けない。だから、そこで生きるしかない。本当に強いのはどっちなのだろう？」と言われて、なんとなく「ありのままを受け入れる」ってすごいことなのかもしれないと思い、その場所で根を張って、季節になると懸命に花を咲かせる植物が好きになったのだと思います。もう数か月も前になりますが、高尾山の植物園のことがテレビで取り上げられていました。その映像を見ていた芸人さんが「植物は逃げることをやめた生き物だから、すごいよね。」とつぶやいていました。

苦しくても逃げずにそこで頑張れと言いたいわけではないのです。逃げた方がいいこともあります。価値観は色々です。どっちが強いとか、えらいとか、良い、悪いではなく、ありのままを受け入れることも大事なのだと思います。自分が置かれた環境を嘆いたり、すぐに別のところへ行ったりするのではなく、ありのままを受け入れられる自分になる、強さ・広さ・しなやかさを身につけることも大切だと思うのです。周りの環境によって、枝葉を伸ばせないこともあります。そんなときは、土の奥深くにしっかりと根を張ればいいのです。

修学旅行 3年 9月18日～20日

奇跡の三日間

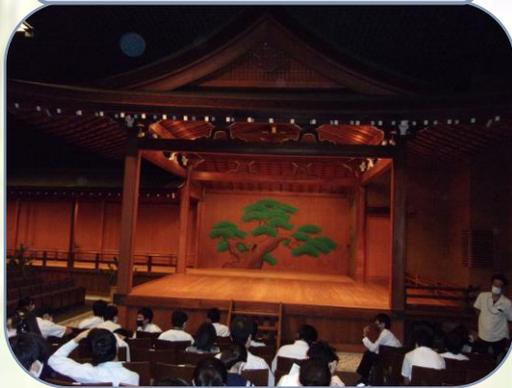


八ヶ岳移動教室 1. 2年 10月3日～5日



演劇鑑賞教室 2年 5組

合唱コンクール 練習風景



本番は10月29日(土)

9月27日(火)に演劇鑑賞教室がありました。昨年に引き続き宝生能楽堂で能を鑑賞しました。文林中学校と合同でした。能舞台や衣装、面についての説明を受け、「船弁慶」を観ました。伝統文化に触れた貴重な時間でした。

10月17日(月)から合唱コンクールに向けた放課後の練習が始まりました。マスクをしたままの練習ですが、どの学年も自主的に練習をしています。

課題曲 1年 カリブ夢の旅 2年 時の旅人
3年 大地讃頌

自由曲 1-1 花は咲く 1-2 旅立ちの時
2-1 信じる 2-2 証
3-1 IN TERRA PAX 3-2 虹



東京消防庁から長年にわたる救急に関わる取り組みを評価され、感謝状をいただきました。

7月31日に行われた一中祭のボランティア活動が全国的な賞である、ボランティアスピリットアワードのコミュニティ賞を受けることになりました。